

Mitsubishi UFJ Asset Management Strategy Report

中東・北アフリカの混乱が世界市場に及ぼす影響について

【リビアの混乱拡大が世界の各市場に影響】

1月のチュニジアの政変に始まった中東・北アフリカ諸国の混乱は、エジプトのムバラク政権を退陣に追い込み、リビアでは民主化を要求する勢力と最高指導者カダフィ氏による現政権との内戦の様相を呈しています。また、バーレーンなど一部のアラブ諸国でも現政権と民主化勢力との衝突が報じられています。

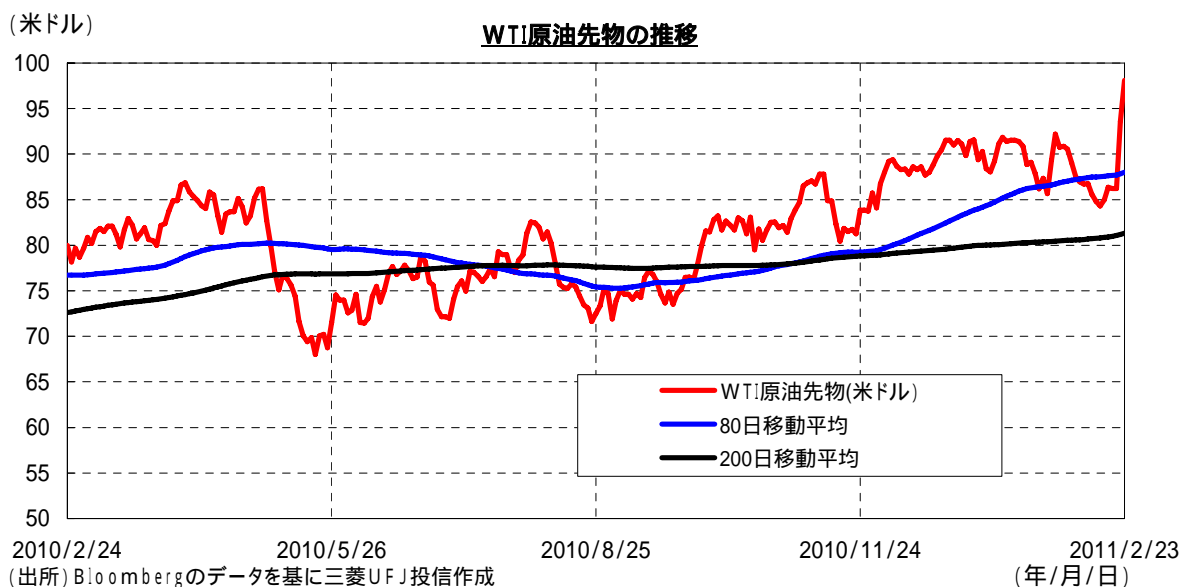
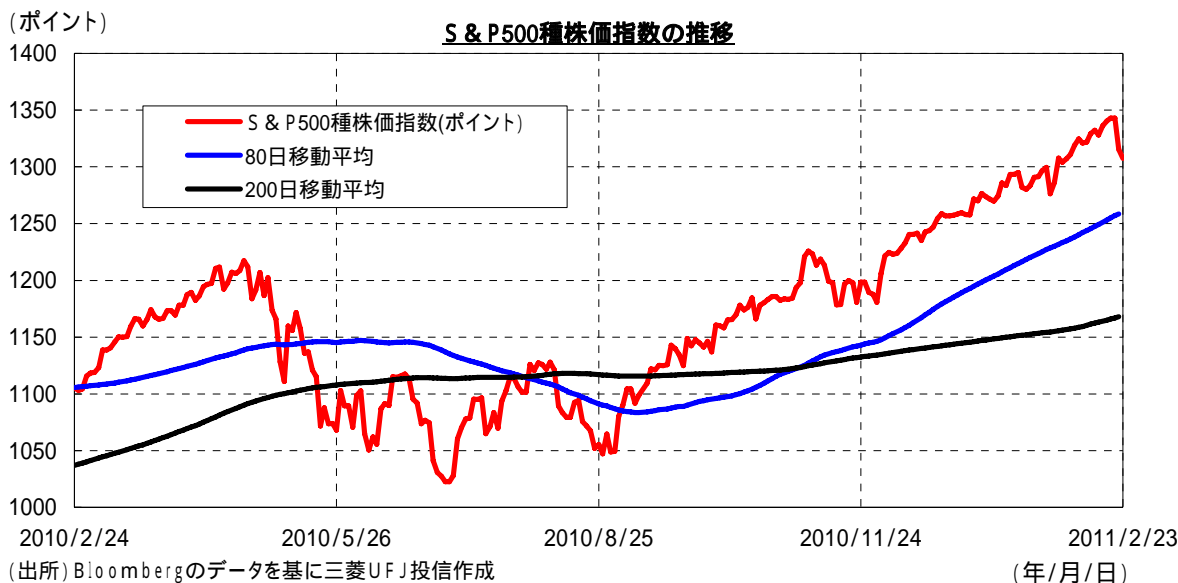
こうした混乱から、今週に入ってからの世界の株式市況は調整色を強め、債券市場では、リスク回避の動きから主要国の長期金利が低下（債券価格は上昇）しています。一方、為替市場では、主要国通貨の動きは顕著ではありませんが、円が対米ドルでやや上昇しています。また、商品市場では、供給面の不安から、原油価格が大幅に上昇しています。

【重要な産油地帯の混乱が不安を増幅】

リビアの混乱の背景には、チュニジアやエジプトと同様、独裁的な政権が長期間継続するなか、インフレ圧力の高まりや失業といった問題があります。しかし、リビアではカダフィ氏が民主化勢力の徹底的な弾圧を宣言し、国軍が民衆に銃を向けたことが、混乱をより深刻にしています。産油国であるリビアは世界の原油生産量の約2%を占めています。現在の世界の生産余力を考えれば補えない水準ではありませんが、供給の安定性を考えると、不安は拭えません。さらに大きな問題として、世界第4位の産油国であるイランなどでも民主化を求める混乱が広がる可能性あり、原油の供給逼迫や価格急騰が世界経済の腰を折ることへの懸念が高まっています。

【先行きは見通しづらいが、世界経済の回復とともに市場は落ち着き】

中東・北アフリカ情勢の今後の展開は見通しづらく、世界の各市場は当面不安定な状況が続くとみえています。しかしながら、政権の行方がどうなるにせよ、これらの地域は国益の点から原油輸出に依存せざるをえず、長期にわたって、供給が逼迫する可能性は高くはないと思われます。混乱や衝突の状況を注視する必要がありますが、事態の一層の混迷がなければ、世界経済が拡大軌道を歩むなか、足下までの動きに敏感に反応した各市場は、徐々に落ち着きを取り戻し始めるとみえています。



以上

当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料に示されたコメント等は、当資料作成日現在の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は株式、公社債等値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。投資信託は、預金保険の対象とはなりません。金融商品取引業者以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。本資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等について保証・約束するものではありません。